



写真・文 タカヤナギユタカ

寿(ことは)ぎの紅 31,500円(カード、紅筆、桐箱、袱紗付き、税込)
お問い合わせ 城下町時代結婚式事務局(アトリエ理内) 石川県加賀市大聖寺新町1番地 TEL 0761-72-6565

京都で生まれ江戸に伝わった紅作りを家伝の秘法として伝えているのが文政8年(一八二五)創業の伊勢半。今では唯一の紅屋となった伊勢半が作る本紅は、赤ではなく玉虫色に見える。これは純度が高い赤の色素が光を吸収して、

祝言の日、嫁ぐ娘に母が紅を差す。なんと美しい光景だろうか。

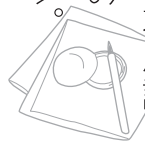
あげた。京都で生まれ江戸に伝わった紅作りを家伝の秘法として伝えているのが文政8年(一八二五)創業の伊勢半。今では唯一の紅屋となった伊勢半が作る本紅は、赤ではなく玉虫色に見える。これは純度が高い赤の色素が光を吸収して、

香合の製作は、『加賀日和』9号で紹介させていた新進色絵作家、金明齋の池島直人さん。九谷五彩で吉兆の鳥、鳳凰が格調高く描かれている。そして袱紗の裏地は紅花で染めた紅絹というこだわりも。

『加賀日和』3号でも紹介した、江戸時代の後半から明治中期にかけて大阪と北海道を往復した北前船。加賀市の橋立、塩屋、瀬越の北前船主や船乗りたちの活躍は大聖寺藩だけでなく広く当時の日本の経済、文化に多大な影響を与えた。

江戸時代から、本紅はお猪口の内側に塗りつけられ、乾いた状態で売られていた。本紅は光に当たると色褪せてしまうため、使わない時は光が入らないように伏せて置かなければいけなかった。

玉虫色に光る紅の不思議。「紅」と「九谷焼」の「コラボレーション」。



反対色である緑色の輝きを放つからなのだから。水を含ませた筆で溶くと、一瞬で鮮やかな赤色に変わる。紅花に含まれている赤の色素は、わずかにパーセント。そのわずかな赤の色素を取り出すために驚くほどの手間と時間がかかっている。器の中で玉虫色に輝く紅にはなんと約2千輪もの紅花が凝縮されている。だから「金一匁紅一匁」と言われる。



加賀市橋立・旧西出孫左衛門家の屋敷跡

加賀日和

vol.15

CONTENTS

- P32 立ち寄り湯手形
- P30 加賀の道楽 発酵食品
- P28 コマカガ日本酒日和
- P26 カフェ日和 清華茶荘
- P06 南加賀の石文化
- P04 エッセイ「愛しの南加賀」 ルロワ東出さん
- P03 これが欲しい! 「紅」と「九谷焼」のコラボレーション

表紙・裏表紙写真 タカヤナギユタカ
表紙 加賀市橋立・北前船の里資料館にて(撮影協力/アトリエ理)
裏表紙 日華石(観音下石)の石蔵/小松市符津町